



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

平成 27 年度授業改善（小学校国語・算数）の充実に係る研修会を実施！

各小学校において、全国学力・学習状況調査を活用し、学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善の充実に図るため、「授業改善の充実に係る研修会」を実施しました。

小中学校の管理職及び教員、市町等教育委員会職員等、のべ 519 人が参加しました。

小学校国語 【講師：大妻女子大学 樺山 敏郎 准教授】

演題：生きて働く国語の能力を高める ～ 全国学力・学習状況調査からのメッセージ ～

1 単元を貫く言語活動、課題解決学習

教科書や教材以外にも図書館等の本や事典、図鑑等を意図的に活用。その活用方法を丁寧に指導

2 学習の見通し ～ ねらいや目的を意識

3 モデルや手引きの提示

モデルや完成型を提示

立ち止まって、深くじっくり考えさせることができる先生の発問の具体化

4 交流の位置づけ ～ 吟味・検討

互いの考えをぶつけあって、ものの考え方を交流して深める

5 学習の振り返り ～ メタ認知

学んだ成果や課題を「ことばのお宝帳」に累積していく

「学習」という冒険のプロセスを自分の言葉を通して伝え合う ～ 振り返りの場（一単元ごと）～

こんな点から考えると何が分かるかな？（観点）

理由や根拠をいくつあげられるかな？（根拠）

学習したことのポイントを、手引きとしてまとめ、6年間通して実践し、ことばの力を蓄積する。

小学校算数 【講師：文部科学省 初等中等教育局 笠井 健一 教科調査官】

演題：算数科における思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

1 よりよく問題を解決する力をつける

インプットだけに終わらない授業

2 繰り返し行う

考える 書く + 考える 話す =

3 わかりやすく教えて練習させる授業

子どもの「分からない（つまりき）」を知る

→ 子どもが「分かった」と実感できるように！

4 子どもに考えさせて、考え方を学び合う授業

困っていることを発表させて、みんなで考える

筋道を立てて考えを進めたり、よりよい考えを見つけたりすることができる。

数学的な考え方を育てる授業

- ◆ 日常生活の問題
- ◆ 学習のねらい
- ◆ 個人解決
- ◆ 学び合い「そういう考えもあるのか」
- ◆ 学習のまとめ
- ◆ 評価問題における解決
- ◆ 学習感想「なるほど、よく分かった」

考えの深まり・高まり

小学校国語

- 今後求められる国語の授業方法（アクティブ・ラーニング等）のイメージについて、具体的な事例を挙げて説明していただいたのでよくわかりました。
- 今までの授業スタイルを変えることには抵抗がありますが、全教員で踏み出していくことが大事です。改善に進む雰囲気が出てきているので、全教員に環流し、改善を確かなものへと進めたいです。

小学校算数

- 全校で一貫したノート指導や、めあてと振り返りを入れた授業等を行っていますが、今後も継続して取り組んでいくことの大切さと、更なる適切な評価の必要性を実感しました。
- 子どもたちの学び合いは「わからない（つまりきがある）児童」を起点に出発していこうと思いました。

参加者より

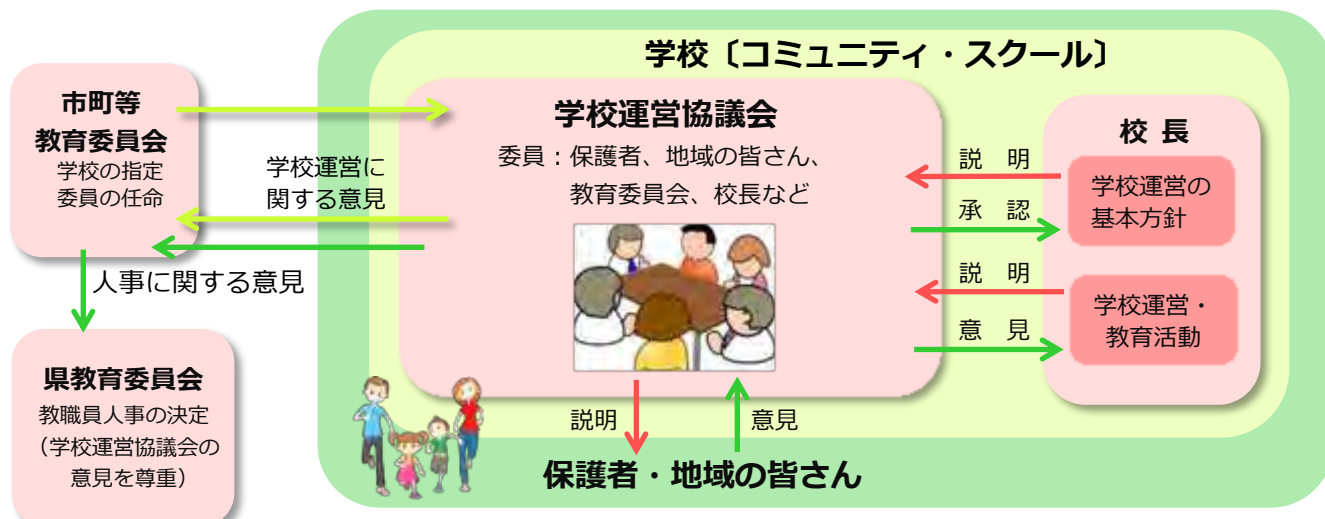
◆連載◆ 全国学力・学習状況調査の結果から見てきたもの

Vol.5 地域と一体になった学校づくり【コミュニティ・スクール】で

学校が変わる！ 地域が変わる！

コミュニティ・スクール（以下「CS」）は、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

● ● コミュニティ・スクールのイメージ ● ●



CS には保護者や地域の皆さんで構成される「学校運営協議会」が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりします。

● ● CS に取り組む学校からの声 ● ●

学校に対する保護者や地域の理解が深まった。

生徒指導上の課題が改善した。



地域が学校に協力的になった。

教職員の意識改革が進んだ。

- CS 指定校と指定校以外の平均正答率（国語・算数・数学の合計）の平均値を算出し比較（H25 年度指定校） ●

（平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果分析から）

CS 指定校において

学力向上等に
効果

が表れています!!

	小学校（38 校）		中学校（14 校）	
	指定前（H21）	指定後（H26）	指定前（H21）	指定後（H26）
CS 指定校	243.7	258.5	259.9	251.1
全国との差	-10.2	-6.2	-11.2	-6.5
CS 指定以外	243.1	253.8	269.2	252.2
全国との差	-10.8	-10.9	-1.9	-5.4

● ● 学校支援地域本部から CS へのステップアップ ● ●

地域で学校を支援する仕組みづくり（学校支援地域本部）に取り組むことで、授業支援、部活動支援、環境整備、安全支援など、学校のニーズに応じた支援活動が進められています。学校支援地域本部から、CS へとステップアップしたり、CS と一体的に推進したりするのも効果的です。

県教育委員会は、開かれた学校づくりの仕組みづくりを検討する学校や、市町が開催する研修会等へ、実践に基づく知見を有する「開かれた学校づくりサポーター」を派遣しています！

- 派遣に係る経費については、県教育委員会が負担します。

【問い合わせ先】 三重県教育委員会事務局 小中学校教育課 TEL059-224-2963

学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例7】伊賀市立城東中学校

集団づくりを基盤にした学力の向上

集団づくりを基盤に、生徒同士の関係性を構築することにより、自尊感情を育て、学力を向上させていく取組につながっています。

学校体制づくり

- A 授業実践分野 (授業改善と授業研究)
- B 学習環境分野 (学習習慣の確立に向けた環境整備)
- C 学習情報分野 (学力定着に関する調査と分析)



3つのグループに分かれて研究し、校内研修で取組や改善策を提案！

授業改善に向けて

■ 授業づくり

➡ 授業の「**目標（ねらい）**」を明確にし、学習内容の「**まとめ（振り返り）**」を行う

自分の言葉を使って、3行でノートに書く

- 小集団活動 ➡ **相互評価**や**ストローグ**※の場面を設定 ※自他の存在や価値を認めるための言動
「評価し合う」&「認め合う」 ➡ **自尊感情 UP!!**

- 授業参観 ➡ ● 全教職員が年間10人以上の授業を参観
● 気づきや感想などを記入した「**授業参観シート**」を授業者に提出

■ 「授業のルール」の徹底（学習規律の確立）

➡ 学年の実態に合わせて、**5つの重点項目**を決め学級掲示
【重点項目の一例】

- ① 授業の準備 ② チャイム着席 ③ あいさつ
- ④ きく（見る、うなづく、最後まで） ⑤ 伝える

➡ 生徒に意識づけ！ ➡ 達成できたら次の項目を設定



家庭学習定着に向けて

- 学習相談会の実施（長期休業中に、年間8回）
- 国語・社会・数学・理科・英語で、**10分**で取り組める**宿題**を**毎日・必ず**提示
- 自主学習ノート「**マイスタディノート**」の取組
 - **自ら決めた課題**に取り組む ➡ 担任&教科担任が指導と支援
 - 班でチェックし合うことで、提出率の向上を図る
- 生活習慣を確立していくため、「**生活ノート**」を毎日提出



学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

- 城東寺子屋
 - 地域の学生や元教員などが講師として、夜間に年間5回程度**自主学習会**を実施
- 読み聞かせ
 - 全ての学級で、毎学期1回、地域のボランティアによる読み聞かせを実施



伊賀市立城東中学校長からのコメント

今学期も、全ての学級、全ての教科の授業を巡回してきました。学習規律が確立され、毎時間、「ねらい」と「振り返り」がなされるようになってきました。さらなる授業改善とともに、家庭学習の質的向上につながる取組をめざしています。

「自校採点結果」から見てきた課題の状況【中学校編】

平成 27 年度自校採点結果と平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果の比較

課題に応じたワークシート (県教委作成) の活用を

国語 A

「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域については昨年度より上回っていますが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については課題があります。

 3年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 「四字熟語を使って作文を書こう」

文脈の中で、適切に語句を理解、活用できる学習の充実を！

国語 B

「話すこと・聞くこと」の領域で上回っていますが、「書くこと」「読むこと」の領域に課題があります。

 3年 書くこと 「書かれている情報を的確に関連づけ、それを基に自分の考えを論理的に書こう」

複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを書く学習の充実を！

数学 A

「数と式」「資料の活用」の領域について依然課題が見られます。

 1年 数と式 「正の数・負の数を使って、時差の問題を考えよう」

 1年 資料の活用 「桑名市と熊野市の気温を比べてみよう」

資料を整理し、資料の傾向を読み取る学習の充実を！

数学 B

「数と式」の領域については上回っていますが、「図形」「関数」「資料の活用」の領域に課題が見られます。

 2年 図形 「三角形の性質を利用して角度を求める方法を考えよう」

問題解決の方法や手順を、数学的な表現を用いて的確に説明する学習の充実を！

理科

「物理」「生物」の領域で上回っていますが、「化学」「地学」の領域に課題がみられます。

 2年 地球（天気の変化） 「雲はどのようにできて、消えるのか」

結果から言えることを、科学的な言葉や概念を使い、まとめる学習の充実を！

「読書を通した学び」を

学校図書館には様々な図書が揃っており、班単位での活動がしやすく、生徒たちが相互に学び合う授業形態に適しています。

志摩市立志摩中学校では学校図書館を活用し、子どもたちが読書に親しむきっかけとなる授業（2年生国語科）をおこなっています。

● 日本名作クイズ

名作の冒頭の一文を紹介 → 書名と作者を答える

● 「私は誰でしょう」クイズ

書名、作者、すすめる理由を読んで、どの先生の「おすすめの本」なのかをあてる

● ミニビブリオバトル（書評合戦）

おすすめの本について、1人3分で書評を発表した後、2分間質疑応答。「一番読みたい！」と思った本“チャンプ本”を参加者全員の投票により決定！！

● 先生や司書による

ブックトークと読み聞かせ

先生や司書が、自らが読書に親しむ姿を生徒に示すなど、学校全体で生徒の主体的な読書活動を促しています。また、生徒が様々な文章や資料を読み、他者と自分の考えを比較しながら、その内容について話し合うことで、言語活動の充実を図っています。

